#### 法政大学学術機関リポジトリ

#### HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-12-27

#### 鴻山文庫蔵映画フィルムの再生とその研究報 告

(出版者 / Publisher)
法政大学能楽研究所

(雑誌名 / Journal or Publication Title)
能楽研究: 能楽研究所紀要

(巻 / Volume)
14

(開始ページ / Start Page)
213

(終了ページ / End Page)
224

(発行年 / Year)

(URL) https://doi.org/10.15002/00020406

1989-03-30

戦後は能楽の三役養成にも尽力された功労者であり、

昭和

# 鴻山文庫蔵映画フィルムの再生とその研究報告

## 1、研究の目的

まれている。 五年(昭和十年)にかけて撮影された映画フィルム約五○巻が含五年(昭和十年)にかけて撮影された映画フィルム約五○巻が含「鴻山文庫」には、江島氏が一九三二年(昭和七年)から一九 三九六~一九七五)のご遺族から寄贈を受けた能楽コレクション、法政大学が一九七六年(昭和五十一年)に江島伊兵 衛 氏(一八

でもあった。と名付け、広く資料を公開し、調査・研究を推進された研究者と名付け、広く資料を公開し、調査・研究を推進された研究者十年頃から私財を投じて古今の能楽資料を蒐集して「鴻山文庫」

一九三二年、当時三十八歳の江島氏は、舞台芸術の宿命とは 一九三二年、当時三十八歳の江島氏は、舞台芸術の宿命とは 一九三二年、当時三十八歳の江島氏は、舞台芸術の宿命とは 一九三二年、当時三十八歳の江島氏は、舞台芸術の宿命とは 一九三二年、当時三十八歳の江島氏は、舞台芸術の宿命とは

能楽は伝統芸術とはいえ、舞台演劇の宿命として変動を避けめフィルムも老朽化していて、このままでは映写不能に近い。ように動きが早い。そのうえ、五十年以上も前の撮影であるたか減して撮影しているので、チャップリンのサイレント映画の加減して撮影しているので、チャップリンのサイレント映画のが、場所は自然の舞台を尊重し、特別な照明も加えず薄暗い舞

この貴重なフィルムを今日に再生して、記録保存を図るととも 事業として立案し、一九八五年から三年計画で取り組んだ。 じめとして、広く研究資料として活用することを目的に、 に、能の演技の変遷、特に近代における変動の実態の解明をは ことは言うを待たない。そうした観点からも、 変化の実態を把握するのに映画フィルムがきわめて有効である 昭和に入ってからも細部では変化が続いている。 能楽研究所では その

別のご配慮をいただき、総計約一〇〇〇万円近い経費で、 目の一九八七年(昭和六十二年)度に完成したのである。 の補助も受けることができ(計五七二万円)、特に最終年度は格 に亙って学術研究資金の交付を受け(計三一〇万円)、大学から 研究資金の交付を申請したところ、幸いにも採択され、三年間 計画の遂行につき、日本私学振興財団の昭和六十年度の学術

#### 2 研究計画

足の速度だった。それでも近代の名手の面影を偲ぶよすがとな ならない。そして、今後の活用を図るためには、 ことがある。そのときは、コマ送りがかなり速く、 話もうかがいながら、保存状態のよいものを中心に映写された でいる。 ったが、そのときからでも二十年近い歳月が流れ、傷みも進ん 三二回例会で「16ミリで故人をしのぶ」と題して、 との 埋もれた映像群を現代に正確に再生することが先決である。 シフィル 記録保存のためにも、フィル ムは、 かつて昭和四十四年十月、能楽懇談会の ムの劣化をくいとめねば 何よりも、こ すべて駆け 江島氏の な 第

> 楽撮影後感」で、 江島氏は『宝生』 昭和七年八月号に発表された「十六ミリの

能

画 補ふ第二に鏡玉の開度は勿論、使用フィルム及現像操作に にやゝ不自然な動きを感じた所もありました。露出不足 動きと等速度に出来ないために、位の静かなものは部分的 動きの型がやゝぼけたこと。又映写に際して完全に原技の 度を標準の十六齣にすることが出来ません。その為に早い してやりました。それを補ふ第一の方法として撮影廻転速 からあの薄暗い舞台光線のまゝで、非常な露出不足は覚悟 れておシテのほか誰にも言はずに撮って居りました。 で、別に撮影の為に照明などは変へて頂かず、観客にまぎ することが可能かどうかを、秘かに確めて置きたかったの 別に何も大それた目的もなく、一瞬にして消え失せる諸 かなり無理があった為に、フィルム銀粒子の荒びを来たし 生の神技を一寸捉へて置きたかったことと、能楽を映画に の鮮鋭度を欠いたこと。 です

などと苦心を述べておられる。

再生作業は、つぎの諸段階にわかれる。 ねつつ、新しいフィルムに正確に再生することを第一とした。 九八六年一月に社名変更)技術陣の全面的協力を得、 再生作業については、株式会社イマジカ(旧東洋現 協議を 所。 重

現フィルムの補修(検査・クリー

ング等

Α

C В ネガフィルムの作成 反転したポジフィルムの作

成

- D コマ延ばしフィルムの作成(有益なものを優先する)
- E 再生フィルムの構成の検討およびシナリオの作成
- フィルム編集 アイトル等の作成・撮影、ポジー 新しく加える説明文やタイトル等の作成・撮影、ポジー
- 加えてのトーキー化 G 場面に合わせて謡を吹き込み、囃子やナレーションを
- H ネガフィルム編集(音ネガ・絵ネガ編集)

### 3、研究経過

### 【整理・分類】

研究所の業務の関係から、フィルム再生の仕事は西野所員が研究所の業務の関係から、フィルム再生の仕事は西野所員がはないことを痛感した。

①江島氏が「能楽断片・名家の面影」と名付けた近代の名手作り、ほぼ内容別に分けた。その内容は五種に大別される。の協力も得つつ雑誌掲載の番組等で確認し、それぞれカードを各フィルムについて、演目・演者(シテ・ワキ・囃子方等)・催まずはじめに、フィルムの汚れなどを取りながら整理した。

### たちの演能

- ②それに準ずる催会の記録
- ③主な所作単元を中心とする各種の「型」
- 連能楽殿舞台披きの記録(昭和十年八月)などの報道④松本長の葬儀(昭和十年十二月二日、東京・青山斎場)・大
- 娯楽性の強いもの。宝生対わんや野球大会・宝生仮装会・わんや銀座店風景等

の世相や風俗を伝える面白い記録で、思わず笑いを誘う。多イトルのとおり、近代の名家の面影を伝えていて興味深い。当時の名手たちの芸や姿を、書物や先輩の言葉から想像していた西野などは、それぞれに個性的で、大きく、鮮やかな風姿にた西野などは、それぞれに個性的で、大きく、鮮やかな風姿には貴重な報道記録であり、満州へ向から一行を見送る駅頭や車中でのシーンもニュース映画のようで、大連能楽殿舞台披き能中でのシーンもニュース映画のようで、大連能楽殿舞台披き能い記録も映像が不鮮明ではあるが珍しい記録である。⑥は当時の世相や風俗を伝える面白い記録で、思わず笑いを誘う。

### 【コマ延ばし】

同じコマをもう一コマ(二倍)ないし二コマ(三倍)加えて延ばす行けるものも少しある)、実際の演技に近づけるための作業で、では動きがかなり早いため(なかには、やや早いがこのま まで再生作業のうちDのコマ延ばしは、前述のように、このまま

仕事である。二倍と三倍の両方を作ってテストし、イマジカ側仕事である。二倍と三倍の両方を作ってテストし、イマジカ側の表所長と西野とが、シテの演技はもちろん、囃子と研究所側の表所長と西野とが、シテの演技はもちろん、囃子と研究所側の表所長と西野とが、シテの演技はもちろん、囃子と研究所側の表所長と西野とが、シテの演技はもちろん、囃子といってデストし、イマジカ側と事である。二倍と三倍の両方を作ってテストし、イマジカ側と事である。二倍と三倍の両方を作ってテストし、イマジカ側と事である。二倍と三倍の両方を作ってデストし、イマジカ側と事である。

主体に「名家の面影」と題し、二時間のものにまとめることにの枠もあり、今回はもっとも有益なフィルムを中心に行うことの枠もあり、今回はもっとも有益なフィルムを中心に行うことの辞までは素材にすぎない。バラバラの断片を整理・編集して、現代の技術によって埋もれていた映像群が甦った。しかし、ここうして再生したフィルムの映写時間は約三時間以上に及ぶ。

# 、「名家の面影」の概容

初年度と二年度は主としてABCDの作業を行い、同時に記めねばならず、試行錯誤を繰り返した。かけた。また説明のため一部ナレーションを入れることにした。がけた。また説明のため一部ナレーションを入れることにした。がけた。また説明のため一部ナレーションを入れることにした。がけた。また説明のため一部ナレーションを入れることにした。がけた。また説明のため一部ナレーションを発した。としつつ、全場保存を旨とし、資料の活用をはかることを第一としつつ、全めねばならず、試行錯誤を繰り返した。

# 【シナリオとカット表】

的には時間の流れのままに並べることにしたのである。 とず全体の構成を練り、ネガフィルム編集担当の川岸喜美江氏たが、同じ催しに立合いのように競演している例もあり、基本でお演目の尺数を計算してカット表を作成した(一部、浅 見 慈一君の補助を得た)。おびただしい断片から今回の再生に ふ さつ君の補助を得た)。おびただしい断片から今回の再生に ふ さっまず全体の構成を練り、ネガフィルム編集担当の川岸喜美江氏まず全体の構成を練り、ネガフィルム編集担当の川岸喜美江氏ます全体の構成を練り、ネガフィルム編集担当の川岸喜美江氏ます全体の構成を練り、ネガフィルム編集担当の川岸喜美江氏ます全体の構成を練り、

名・会場」を記したタイトル原稿を作成。その際、 ずお時間をさいて下さったご協力に対し御礼申しあげる。 ことになった。また全体を「昭和七年の映像から」「昭和八 年 撮影し新たに加えた。江島氏の作った旧タイトルも生かすよう 集担当の後藤宏幸氏に整理してもらい、ツドー工房に発注して はそれぞれの流儀の当時の謡本から採って構成し、フィルム編 台などについていろいろお尋ねした。急なお願いにもかかわら 用のビデオ(サイレント段階)をご覧いただき、演目や催し・ ともに九十歳の鈴木一雄・山口幸徳氏には能楽研究所で、 キ方宝生流森茂好氏には国立能楽堂で、シテ方観世流の長老で の映像から」「昭和九年の映像から」の三ブロックに分けた。 にしたが、数も少なく、結果的には全部に新タイトルを付ける ついで各演目について、「演者名・曲名・演能年月日・催 また編集にあたっては、 当時の舞台のことをよくご存じのワ 曲名の字体 l

# 化について

ル

した。 そこがどの場面か分かりにくい。能の演技は謡と所作(型)を基 受けて下さり、それぞれ工夫して吹き込んでいただいたご協力 菊次(金春流)・豊嶋訓三(金剛流)・友枝昭世(喜多流)の各氏に 込むことにし、観世栄夫(観世流)・近藤乾之助(宝生流)・瀬尾 に対し、心から感謝申し上げたい。 お願いした。ご多忙の中、しかも急ぎの困難な作業を快く引き 小することも検討したが、最終段階で、殆どの演目に謡を吹き 生やコマ延ばしなどの諸作業に経費がかさみ、一時は規模を縮 もなるように字幕がわりに場面に合わせて謡を吹き込むことに 本とするから、謡がないと理解しにくい。そこで鑑賞の一助と フ 計画当初からトーキー化をめざしていたが、基本的な再 ムはサイレントであるため、われわれ素人や一般には

能部のスタジオ・銕仙会・イマジカなどで行った。 ら二人三脚で進めた。録音のための部屋も近藤乾之助氏宅・芸 ら高性能のテレコ(ナグラ)を借り、後藤宏幸氏の協力を得なが 録音作業は経費節約のため、東京国立文化財研究所芸能部か

であるが、原フィルムの回転数が一定していないので場面に合 なかったもの、 せるのが難しい。 デオテープを見ていただき、それに合わせて謡を吹き込むの 全体の調子はまずまずと思う。 れにしても謡の吹き込みは難事だった。編集用にまとめた 不即不離といったものなど、さまざまである 比較的うまく合っているもの、無理に合わ

ところでトーキーに関し、何といっても最大の因難は、 フィ

> 瀬尾氏にはその前段階のポジフィルムの編集にもお力をいただ 判断が要求される。このとき殆どの演目に後藤宏幸氏のほかに 業にかかっている。一分一秒たりとも無駄には出来ず、 スタジオで行ったが、せっかくの録音を生かすも殺すもこの作 役者の瀬尾菊次氏が立ち会ってくれたことは大いに心強かった。 ムに音を入れるダビング作業だった。目黒にある日映録音の 感謝の言葉もない。

れば、 く 置である。慣れないダビングで緊張したが、ともかく完了でき すべて製作側の責任であり、 れにしろ、吹き込みに関する録音上の不備、 たのはミキサーの福田誠氏のお力によるところが大きい。いず 続いているものもあって、一定しないが、それぞれに応じた処 新たに加えた謡のなかには、所作との関係でその場面より早 演目タイトルを映している間(7秒)に謡が始まるものもあ 場面は終わっているのに謡だけが余韻を残すかのように 演者の責任ではない。 画面とのずれなど、

は、 て用い、全体の導入や解説を兼ねるナレーションのナレーター 迫力に溢れた映像になった。 く調和して期待にこたえてくれた。 名手たちの技と、新しく入れた謡。サイレントのとき以上に 本大学出身の声優・秋元羊介氏に頼み、その声と映像がよ また一部に囃子の音をBGMとし

# 【オープニングとエンディングについて】

プニングには、 「名家の面影」は全三巻約四〇〇〇フィートに 日本私学振興財団と法政大学の資金によって進 及んだ。 覧いただいたことだけでも慰めとしなければならない。 背景にナレーションで江島氏の紹介と撮影時の工夫などを解説 からご冥福をお祈りするとともに、今は、編集用のビデオをご 和六十三年十月一日、九十八歳の誕生日を前に逝去された。心 夫妻のご協力に厚く御礼申し上げる。その近藤乾三さんが、昭 入る構成にした。大越雪堂氏、近藤さんならびに近藤乾之助ご そして近藤さんと一緒に名家の面影を見るかたちでメインタイ あげられ、ご自分の「善知鳥」の場面では即座に謡を歌われた。 ご自分の舞台はもちろん諸先輩の舞台を非常に懐かしみ、モニ その模様を、許可を得て特別に撮影したのである。近藤さんは 風景を入れた。野口兼資・松本長・先代宝生九郎・佐野巌ら懐 し、続いて昭和七年当時の宝生能楽堂の外観や月並能での楽屋 トル「名家の面影」(題字・書家の大越雪堂氏)を出し、演目に ターから目を離されない。記憶力抜群、囃子方の名前も次々と して、編集用のビデオを見ていただき、いろいろお話を伺い、 ムの中には若き日の近藤さんの舞台もあり、近藤さん宅を訪問 老近藤乾三さんがモニターを見ているシーンを映した。フィル かしい顔が映る。ついで江島氏が作った原タイトル「能楽断片 「道成寺」のシーンと、九十八歳になられるシテ方宝生流 の 長 名家の面影」を出し、続いてコマ延ばしをしない早いままの ルで示し(ここはサイレント)、つぎに江島氏の晩年の写真を 記録保存と今後の活用をはかることなどをローリングタイ

るほうがシンプルかつ効果的と考え、「清経」の〈恋の 音 取〉かなおメインタイトルにかぶせて効果音を入れた。 笛一管によ

せる意図もないではない。ら導入にふさわしいフレイズを選んだ。名手たちの魂を呼び寄

# 5、再生を終えて

ナレーションで締めくくった。

魅力的で、力強く、存在感のある風姿。名手たちが何ゆえに名手と称えられたかを雄弁に物語る映像群。溢れ、型が大きく、それぞれ個性的で、鮮烈の一語に尽きる。溢れ、型が大きく、それぞれ個性的で、鮮烈の一語に尽きる。

念を抱く。よほどの財力とハイカラ趣味とをもっていなければ撮影技術の未発達な時点で、よくぞ撮って下さったと畏敬の

えた観客の存在などと深くかかわっているように思われる。た時代の技の伝承の問題や行住坐臥の精神のありよう、目の肥たあが、名手たちが五十代から六十代にかけての年盛りの映像が残された幸運を思わずにはいられない。それにしてもの映像が残された幸運を思わずにはいられない。それにしてもの映像が残された幸運を思わずにはいられない。それにしても不可能であり、その両方を兼ね備えた江島氏によって、これら不可能であり、その両方を兼ね備えた江島氏によって、これら

ろう。とって、現代の能の方向を考えるうえで、大きな力となるであとって、現代の能の方向を考えるうえで、大きな力となるであこうした問題も含めて、この映像群は、演者と鑑賞者双方に

供があり、 想をうかがい、 たという、行方不明の「芭蕉」と「鞍馬天狗」 の操作は両日ともに国立能楽堂の印藤英明氏の協力を得た。 映写会を開き約二〇〇名が参加、 たっては国立能楽堂のご配慮をいただき、五月十日には学内で 者約二〇〇名を招いて国立能楽堂で試写会を開いた。 なお、 意見の一二を紹介すると、 昭和六十三年二月二十二日、 試写・映写会とも質疑応答やアンケートでご意見・ご感 試写会当日、 早速追加の再生作業を施したことも、 後日、 江島弘志氏から、 送っていただいた方も 山木ユリ氏は 完成と報告を兼ねて、 ともに好評を博した。 全然別の函に入ってい いる。 のフィ 付言しておき 寄せられた ルムの提 映写に当 能楽関係 映写機

名人の方々をかくも網羅し、こんなにたくさんな曲を観せ名を聞いただけ、あるいは不確かな記憶しかなかった昔の

れなりに面白く興味が持てました。果を発揮している場合も、芸位の隔たっている場合も、そで、ずれはあっても随分苦心されたことでしょう。謡が効す多く大助かりでした。まるで場面をみながら入れたようて頂いて感激しています。謡が入ってはじめてわかる場面

た。間が絶妙でした。が演じられていくリズムーメリハリは伝わり誠に貴重でしが演じられていくリズムーメリハリは伝わり誠に貴重でし後見が小走りといった工合でしたからかなり早いわけです

を思い感激しています。(以下略) 追力――いずれも濃い内容に驚き入りました。心から楽し 表、角田川(金太郎)の立姿、笹の使い方も面白く、壇風の 表、角田川(金太郎)の立姿、笹の使い方も面白く、壇風の 出と(六平太)の坐って長刀を置く一瞬の呼吸、羽 山姥(兼資)の足拍子、松本長の後に廻って行く背に満ちて

と記され、波多江有香氏は、

感じたことを並べさせて頂きますと、でしょうか。舞えなくなる危機の迫っている時機ですね。戦前夜のような時期、みなさんどの様な気持で居られたのちですが皆若々しく。潑溂としたものを感じます。今次大ちですが皆若々しく

- がとても古格を思い出させました。 先づ型が大きく、過剰な sensibility を余り感じないこと
- てフィルムの sensiblity に感心しました。 写真の知識が皆無なので困りますが16mmからの画面とし

。謡も合わせてる――ということをそれほど気にしなくてよ ほどのできだと思いますし、はやしも同感です。

。歩びがもう少し緩んで欲しいと申しては、望蜀の慾ばりに

なりましょうか。(以下略)

という感想を寄せられた。松野秀世氏も詳しい感想を寄せられ、 諸家の往年ことに最も壮んな頃の姿が残されたこともあり、 られる。(略) 政吉・長・万三郎・六平太諸師の装束の付き がしっかり行われて、型を端的に強く示している様子が知 充分に今後の手本にもなり得る。充実感の源は基本の習練 に共通した姿のふくらみがあるのは、壮年期の押出しか。

(以下略)

と考えている。 く、あらためて御礼申しあげ、今後の研究に生かしていきたい などと細かく観察されている。 ほかにも大変貴重なご意見が多

れも担当の西野が出演し、解説した。 育TVの祭日放送ではもっと時間を延長して放映された。 ルで紹介され一部を放映した。また九月二十三日のNHK・教 なお六月十日、NHK・教育TV、ETV8の文化ジャーナ いず

しあげる次第である。 この仕事は完成しなかったといってよく、衷心より深く感謝申 しあげるとともに、各位の献身的なご協力・ご助言がなくては、 ならず、関係各位にご迷惑をおかけしたことを心からお詫び申 最後に、最終年度は時間不足から、かなり無理をしなければ

#### 江島伊兵衛氏撮影能楽フィルム 「名家の 面影 演 目一覧

昭和七年の映像から

### 1 梅若万三郎〈芭蕉

順に記す)。 利 シテ梅若万三郎 ワキ青木只一。笛杉山立枝 大鼓斎田喜一郎(以下、囃子方は笛・小鼓・大鼓・太鼓の 7 5 26 梅若研能会月並能 高輪·梅若能楽堂) 小鼓大倉宣

# 喜多六平太〈鞍馬天狗-白頭〉

朝日講堂)

2

尾潔 喜多節世 アイ多々良外茂三・多々良登。一噲又六郎 シテ喜多六平太 友弥 子方(牛若)喜多長世・(稚児)梅津芳文・高木香一・ 川崎安雄 金春惣右衛門。 ワキ野島信 ワキツレ古川順之助・ 7 3 • 29 朝日能初日 野口

### 3 野口兼資〈三山〉

鬼三。地謡 \* 松本長( \* 印は地頭)・桐谷正治・ 正信・唐沢時司 アイ柳田厳吉。一噲英二 シテ野ロ兼資 川清・朝倉六郎・榎本秀雄・本間煕・畑富次。 7 • 4 • 10 ツレ佐野巌 (同 宝生会月並能 ワキ松本謙三 宝生会能楽堂 幸悟朗 ワキツレ藤田 瀬尾要・三

シテ近藤乾三 ツレ武田友孝・高橋進・近藤礼 立衆桐谷 4

近藤乾三〈夜討曽我〉

7

8

9

宝生重英

同

有

貞治 ・ 武田喜男〈小鍛冶〉 幸悟朗 シテ松本長 雄。三谷良馬 小林清太郎。 尾要・三川清・ 長 加藤秀治・田中幾之助・ 高安鬼三。 〈松風〉 ツレ  $\overbrace{7}{\cdot 4}$ 中野営三 24 近藤季雄。 宝生会春別会 林弘 アイ山本晋・正木辰

5

6

宝生重英〈盛久〉 本秀雄・大浦嘉門・本間煕・小林麟一。 信 シテ武田友孝(喜夫改メ) アイ佐野平六。藤田大五郎 地謡\*宝生重英・高橋進・近藤礼・三川清・榎 7 · 5 · 8 7 • 3 ワキ光本弥一 宝生会月並能 29 青木直七郎 朝日能初日 ワキツレ藤田 宝生会能楽堂 川崎利吉 朝日講堂) 正

野 川清士。寺井政数 シテ宝生重英 口兼資〈山姥〉 ワキ宝生新 幸悟朗 中村慶作。 ワキツレ光本弥 アイ小早

安福春雄 シテ野ロ兼資 信·唐沢時司·森茂好 瀬尾要・ 増田喜太郎· 柿本豊次。 7 6 ツレ三川清 12 地謡 \* 松本長・桐谷正治 アイ山本晋。 斎田光正・畑富次・木村欽治。 宝生会月並能 ワキ宝生新

加藤賢吉

武田喜男 中野営二 ワキツレ藤田正 宝生会能楽堂

14

野村論・斎藤篤・田部井啓三・川上陽通 地謡\*宝生重英・瀬 宝生会能楽堂

10

近藤乾三〈善知鳥〉

(同

包

波吉外次・榎本秀雄・川上陽通・矢野正吉・

斎藤篤。

幸悟朗

安福春雄。

地謡 \* 松本長・桐谷正治・

武田喜男

シテ宝生重英

ワキ松本謙三

アイ高井則安。

島田巳久馬

ワキ松本謙三。 島田巳久馬

11 喜多六平太〈藤戸〉(仕舞)

林清太郎・田部井啓二。

アイ柳田巌吉。一噲鍈二

森重朗

近藤季雄。

地謡\*宝生

重英・瀬尾要・高橋進・近藤礼

・小林麟一・朝倉六郎・小

シテ近藤乾三

ツレ佐野巌

子方前田忠弘

ワキ光本弥

喜多 シテ喜多実 子方喜多長世 喜多六平太 実 〈邯鄲〉(7・6・11 地謡 7 · 6 · 金子五郎・友枝喜久夫 ワキ宝生新。 27 学生鑑賞能 特別上演 寺井政数 九段能楽堂) 喜多能舞台) 森重

12

安福春雄 松村隆司。

13

俊雄 シテ喜多六平太 喜多六平太〈羽衣〉 金春惣右衛門。 ワキ宝生新。 同 噌又六郎 包 瀬尾潔

以上第一巻

シテ喜多六平太 喜多六平太 安福春雄。 地謡 〈頼政〉 金子五郎・友枝喜久夫ほ 7 6 27 特別上演 מל מ 喜多能舞台)

15 喜多 シテ喜多六平太 実 〈熊坂〉 同 有

安福春雄 金春惣右衛門。 地謡 金子五郎・友枝喜久夫ほ

16 か。

喜多六平太〈巴〉 シテ喜多六平太 同

包

松平藻海 シテ松平藻海 〈小督〉 ツレ野村諭・ 7 • 10 林弘 23 染井能会 ワキ宝生新。 染井能舞台)

17

シテ本間広清 本間広清〈葵上〉 中野営三 久米桂一郎。 ワキ松本謙三。 7 2 2 21 藤田大五郎 慈善能 宝生会能楽堂) 瀬尾潔 塩田

18

〈籠太鼓〉

武夫

戸田松里。

19

シテ松本長 吉外次・高橋徳之・木村欽治・畑富次・本間熙。 郎 川崎利吉。 ワキ宝生新 7 7 10 地謡\*野口兼資・桐谷正治・近藤礼 アイ野村万造。 宝生会月並能 寺井政数 宝生会能楽堂) 北村

野村万介・萬斎〈悪太郎〉 同 包

20

悪太郎 野村万介 念仏僧 野村萬斎 伯父 市川七作。

野口兼資 〈藤栄〉

21

司。 辰雄・山本晋。 子方米倉義勝 シテ野口兼資 毛利辰吉・川上陽通・畑富次。 地謡 \* 松本長・桐谷正治・高橋進・武田喜夫・斎藤篤 7 9 • 11 ツレ近藤礼・加藤秀治・桐谷貞治(他二人) ワキ宝生新 噲鍈二 北村一郎 宝生会月並能 ワキツレ藤田正信 中村慶次郎 宝生会能楽堂 アイ正木 松本隆

> 22 宝生重英 〈富士太鼓〉 同

> > 包

吉。 正治・瀬尾要・波吉外次・大浦嘉門・河合定彦・朝倉六郎 シテ宝生重英 島田巳久馬 子方前田忠弘 幸悟朗 高安鬼三。 ワキ松本謙三 地謡 \* 松本長・桐谷 アイ柳田巌

矢野正吉。

23 近藤乾三〈殺生石〉 (同 右

藤田大五

高橋進 森重朗 シテ近藤乾三 ワキ光本弥一 三川清・増田喜太郎・ 安福春雄 柿本豊次。 高橋徳之・榎本秀雄・小林 地謡\*宝生重英・瀬尾要・ アイ柳田巌吉。三谷良馬

瓣一。

24 宝生重英・英雄〈望月〉

アイ山本晋。一噲又六郎 シテ宝生重英 7 9 20 ツレ佐野巌 森重朗 宝生会臨時能 子方宝生英雄 高安鬼三 松村隆司。 宝生会能楽堂 ワキ宝生新

《以上第二巻》

金春栄治郎 〈小袖曽我〉

25

春雄。 シテ金春栄治郎 中川四郎 アイ柳田巌吉。 7 · 9 · 28 ツレ野村保・ 一噲鍈二 青木直七郎 高瀬寿美 朝日能二日目 トモ早野隆太郎 朝日講堂)

26 川崎利吉。 桜間金太郎 シテ桜間金太郎 〈角田川〉 ワキ宝生新。 7 10 26 一噲又六郎 金桜会 細川舞台 北村一郎

27 梅若万三郎 〈安宅〉 春惣右衛門。

若万三郎 (未詳。あるいは8・3・21の観世紅雪追善能か。 ワキ宝生新。 寺井政数 幸悟朗 高安鬼三) シ テ 梅

28 宝生重英〈道成寺〉

シテ宝生重英 安福春雄 7 10 30 金春惣右衛門。 ワキ宝生新 アイ山本晋。 宝生会別会 宝生会能楽堂) 一噲鍈二 瀬尾

29 観世左近〈花筐-筐之伝〉

シテ観世左近 7 • 12 • 2 岩倉具視公五十年祭報恩能 ワキ宝生新。 一噲又六郎 森重朗 九段能楽堂 川崎利

37

32 31 30 金剛右京〈葵上-替之型·無明之祈〉 梅若万三郎〈葵上〉 野村万斎〈口真似〉 シテ野村万斎 アド野村万造・野村万介。 (月日未詳 (同 梅若会) 有

シテ金剛右京 ワキ松本謙三。 7 • 3 19 島田巳久馬 能楽協会能 亀井俊雄 九段能楽堂 金

38

昭 和八年の映像から〕

39

☆わんや書店(銀座店)

☆野球--宝生チーム対わんやチーム(8・4・ 29

33 宝生重英 井則安。島田巳久馬 宝生重英 〈翁〉 千歳 宝生英雄 8 . 1 . 8 中野栄三 三番三 山本東次郎 宝生会初会 宝生能楽堂) 川崎安雄。 面箱

40

34 森重朗 金剛右京 シテ金剛右京 近藤季雄。 〈花月〉(8・2・11 ワキ古川順之助 能楽協会能 アイ高井則安。三谷良馬 九段能楽堂)

35 金春光太郎 〈景清〉 (同 迶

シテ金春光太郎 ワキ野島信。 寺井政数 幸悟朗 崎利

梅若万三郎 〈菊慈童〉(舞囃子) (同

36 梅若万三郎〈道成寺-次第三遍返・中之段数拍子崩〉 梅若万三郎 一噲又六郎 北村一郎 高安鬼三 観世 元継

世織雄 宝生重英・英雄〈石橋-連獅子〉 シテ梅若万三郎 一層又六郎 鐘引観世左近 大倉喜太郎 8 • 4 • 22 ワキ松本謙三 後見観世銕之丞・鈴木亥三郎。 高安鬼三 万三郎復帰能 アイ山本東次郎。 金春惣右衛門。 宝生会能 地頭観 (楽堂)

衛門。 ワキ松本謙三。一層又六郎 シテ(親獅子)宝生重英 8 5 . (子獅子)宝生英雄 宝生嘉内追善能 幸悟朗 川崎利吉 宝生会能楽堂 ツレ高橋進 金春惣右

桜間道雄 アイ柳田巌吉。島田巳久馬 渡辺喜彦・中川四郎・守屋与四巳・江島俊吉 シテ桜間金太郎 桜間金太郎〈安宅〉(9・6 〈石橋〉 同山 桜間伴雄・高瀬寿美・桜間 同 森重朗 20 包 金春普及能 亀井俊雄。 ワキ宝生新 朝日講堂 龍 馬

シテ桜間道雄 ワキ光本弥一 アイ山本晋。 藤田大五郎

41 梅若万三郎〈安達原-黒頭・急進之出〉 中野営三 安福春雄 8 6 • 金春惣右衛門。

ワキ松本謙三 アイ野村万造。加藤賢吉

同友会

九段能楽堂)

青木直七郎 中村慶作 柿本豊次。 シテ梅若万三郎

42 観世左近・梅若万三郎〈蝉丸-替之型〉

8 9 • 27 四流聯合演能大会 朝日講堂

野口友弥・富山喜一 アイ多々良外茂三。一噲鍈二 鵜沢 逆髪 梅若万三郎 蟬丸 観世左近 ワキ野島信 ワキツレ

喜多六平太〈国栖〉

高安鬼三。

43

8 9 28 四流聯合演能大会 朝日講堂

子方喜多節世 ワキ松本謙三 ワキツレ山崎香吉・唐沢時 シテ喜多六平太 前ツレ金子五郎 アイ正木辰雄・辺見大喜。 寺井政数 後ツレ友枝喜久夫 中野営三

乃武 金春惣右衛門。

金剛右京 仕舞〈融〉 余 ぎ

44

45 松本長 舞囃子〈天鼓〉 (未 詳

、昭和九年の映像から〕

梅若景昭 〈花筐〉(袴能)

46

シテ梅若景昭 子方梅若景英 ワキ小泉信吾。

> 47 梅若景昭 〈野宮〉

梅若能楽堂)

シテ梅若景昭 ワキ小山健太郎

48 喜多六平太〈葵上〉

9 9 • 18 四流聯合演能大会

朝日講堂)

シテ喜多六平太 レ光本弥一 アイ速見大喜。 ツレ友枝喜久夫 ワキ松本謙三 ワキツ 一噌鍈二 幸円次郎 加藤

良助 松村隆司。

松本長・松本謙三〈檀風〉

49

シテ松本長 ワキ松本謙三 ワキツレ(本間)宝生新 宝生会能楽堂)

山崎香吉・森茂好。

調査不足のため不備も多く、各位のご教示をお願い申しあげ る。特に当時の番組などお持ちの方はお知らせいただければ

以上第三巻

〔文責・西野 春雄一